

6

グローバル化による 東京一極集中は 「愚者の楽園」

**大手製造業の不祥事が続く
原因はコスト競争**

昨今、神戸製鋼所や日産自動車、スバルなど大手製造業による品質上の不祥事が相続している。この問題の根は深い。

1960年代から米国の品質を指してきた日本の製造業は、80〜90年代には世界に誇る品質に達した。しかし、2000年代に入ると、企業間の競争の焦点は、いかに魅力的な価格を提示するかというコモディティ化の時代に移っていった。さらに経済のグローバル化に伴い、韓国や台湾を先達にBRICsと呼ばれる新興国企業が安い人件費を武器に鉄鋼、電機、自動車業界に進出すると、コモディティ化は一気に加速し価格競争に輪をかけた。

こうして日本の生産現場の目標

は、品質からコスト削減に置き換わった。企業経営者は、「ストレッチ」や「チャレンジ」などのスローガンで現場にプレッシャーをかけ、現場は無理を重ね、挙げ句、「ルール違反」を犯すところまで追い込まれていった。つまりコスト競争が、今回のような不祥事を招いたのである。

**製造業の力を弱めたのは、
グローバル化と貿易と
金融の自由化**

日本の製造業がコスト競争に陥った背景には、経済のグローバル化がある。「貿易と金融の自由化」が絶对的な正義であるかのような幻想を抱かせながら、世界市場のさまざまな垣根が取り去られた。金融の自由化は、過剰マネーが世界中の投資機会を超高速で探索し、短期的な利ざや稼ぎにしのぎを削る世界を生み出

した。企業経営者は「お客様満足」の旗に変わって「株主様満足」の旗を掲げるようになり、「ROE（当期純利益／株主資本）10%達成」などという空疎な目標の実現に突き進んだ。

また、貿易の自由化は世界的な規模での厳しいコスト競争を製造業に課すことになり、非正規労働力への依存による人件費の圧縮が始まった。コスト競争に耐えられない企業は、低賃金労働を求めて工場を海外に移転し、先進国での製造業の空洞化が進んだ。

さらに貿易の自由化は、関税の引き下げを駆動力にして物価の押し下げを促進し、海外の低価格の工業製品や農畜産品が勢いよく流入した。海外製品にコスト競争で敗れた生産者や企業は姿を消すという厳しい現実が直面した。こうして製造業は洞

視点



松尾 雅彦
スマート・テロワール協会会長
元カルビー社長

トランプ大統領のアジア歴訪

北朝鮮問題の帰趨が心配されるなかで、米大統領のドナルド・トランプ氏が周辺国を一巡しました。アジア歴訪で印象づけられた彼の姿は、米産業のセールスマンとしての姿です。米国の貿易赤字の大部分を占めている相手国は、中国と日本だからです。彼の奮闘は、おそらく世界中のマスコミを敵に回しています。しかし、彼が戦っているのは、従来の米国流の市場自由主義です。米国は、市場自由主義に基づく貿易ルールで、率先して市場を開放したために、大きな赤字に陥りました。その反省から、TPPなどによりさらに市場開放を拡大する措置に断固反対しています。

米国の苦難は、日本の明日の姿なのですが……

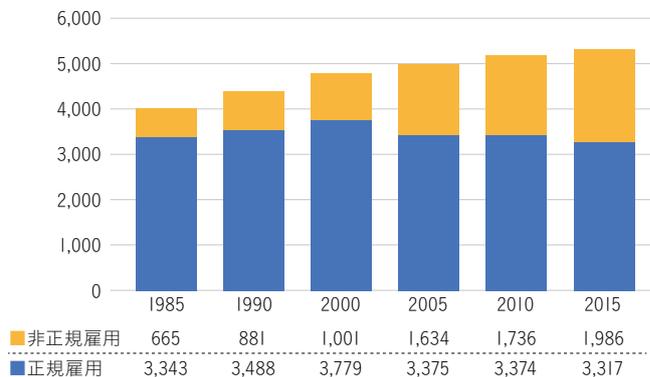
国を開いて豊かになるのは、その国の為替レートが相対的に安いときです。高くなれば、自国でつくより外国から買ったほうが安くなるので、多くの国が貿易赤字

山形大学農学部、豚肉加工品を発売

庄内スマート・テロワールに取り組む山形大学農学部が、実証展示圃で肥育した豚肉の加工品を11月26日に発売した。以下がその商品ラベルである。



正規雇用と非正規雇用労働者の推移 (単位: 万人)



落の一途をたどっている。

**日本の力を強めるのは、
地域が自立した
畜産産業・食品加工業**

こうしたグローバル化の流は「向都離村」の流れに拍車をかけることになった。廃業に追い込まれる企業、海外へ移転する工場、やっと職にありついても非正規雇用、という現実が地方の衰退を招いた。農業も畜産業もこの流れの中で将来の展望を失いつつある。こうした現実が「向都離村」の流れに棹さしている。

米国のジェイン・ジェイコブズ氏

の著書『発展する地域、衰退する地域』の第1章に「愚者の楽園」という記述がある。マクロ経済がハンドリング可能だと信じ、幻想の「マクロ経済政策」を繰り出す経済学者や政治家たちが、自分たちが住む都市が繁栄しているのを見て、成功していると勘違いしているという意味である。日本の政策の結果として生まれた東京一極集中は、まさに愚者の楽園である。日本の力を弱めたのが、グローバル化による製造業の弱体化であるなら、地域ごとに自立した畜産産業・食品加工業が日本の力を強める源である。

になります。日本の為替は、1985年のプラザ合意により、1ドル240円台から120円台に短期間で2倍になるという円高が進行しました。今や日本は、東芝問題のように電器やその部品を輸入するようになりました。やがて電気自動車の開発が進むにつれ、日本の産業の基軸とされてきた自動車も輸出から輸入に移るときを迎えます。米国が貿易赤字に苦難する姿は、明日の日本の姿です。それでも自由貿易が普遍的な価値と思うことは不自然なのです。

米国が自由貿易から撤退するには必要なプロセスです

トランプ氏の手荒すぎるアプローチは、「Creative failure (創造的失敗)」と批評され、次期大統領選挙で敗れるかもしれません。しかし、世界がさらに自由競争の市場を拡大していけば、巨大企業の投資家に富が集まります。それは各国の経済が弱まっていくことなので、望ましいことではありません。強者が自由を謳歌するのではなく、弱者の生存を確保し、地域の経済が元気に息づいてこそその世界です。その世界をつくるためのキーワードは「サステナビリティ (持続可能性)」と「ダイバーシティ (多様性)」です。